

# 「推量表現 共通調査項目」の概要／京都市方言の推量表現

松丸 真大（滋賀大学）

## 1. 背景

### 1.1. なぜ推量表現か？

このプロジェクトは、日琉諸方言の文法形式を網羅的に記述することを最終的な目標にしている。プロジェクトの中のモダリティ班（現在メンバーは高木千恵・船木礼子・松丸真大）は、諸方言のモダリティに関わる形式を適切な精度で記述することを目指している。それぞれの方言のモダリティ体系全体を調査するのが理想であるが、調査票の設計にも、それを用いた記述調査の実施にも時間がかかってしまい、現実的ではない。そこで、モダリティの意味領域ごとに調査項目を作成することにした。

今回は、モダリティの意味領域の中でも「推量」を選び、調査票を作成した。この背景には、次のような予想があった。

1. 多くの方言に推量を表す形式が存在するだろう。ただし、全ての方言に存在するとは考えていないし、推量という確固としたカテゴリがあると考えているわけでもない。できるだけ多くの方言にありそうなものから調べようという方針による。
2. 形式のバリエーションが豊富だろう。船木（2007）や大西編（2016）によると、推量を表す形式には様々な出自のものがある。
3. 用法のバリエーションが豊富だろう。上の2.と関連して、形式の出自が異なれば、その用法も異なることが予想される。

### 1.2. 共通調査の目的

この調査の目的は次の通りである。

- (a) **日琉諸方言の推量表現に関わる形式をすべて捉える**：典型的な推量形式だけでなく、推量に関わる形式を全て収集することを目標とした。推量と他の意味領域とにまたがる形式を観察することで、推量と他のモダリティ的意味との関連を探ることが可能になると考える。
- (b) **各形式の異同を方言内・方言間で比較できるようにする**：多くの方言では複数の形式が推量の意味・用法を担う。その場合、それらの形式はどの点で共通していて、どの点異なるのか、が課題となる。また、異なる方言における推量形式を比較する場合も同様の課題が設定できる。これを解決するためには、それぞれの方言が共通の概念・例文を用いて調査されているのが良い。
- (c) **調査結果を共有できるようにする**：調査結果は、今後、方言文法研究会のサイトで公開する予定である。日琉諸方言の推量表現に関わる研究者・学生のみならず、古典語研究・対照言語研究などにも寄与できると考える。ただし、現代の諸方言以外を扱う場合には、

調査項目の追加・修正が必要になろう。

## 2. 調査項目の設計方針

### 2.1. 可能な限り先行調査の質問文を踏襲する

先行調査との比較を目的として、この方針を立てた。ただし、本調査の設計方針や調査項目間の連関との間に齟齬が生じる場合は、設計方針・項目間の連関のほうを優先した。参照した先行調査は、国立国語研究所（1994, 1999, 2002）およびその準備調査、船木（2006）、全国方言分布調査およびその準備調査の調査票である。また、調査票の構成として風間（2011）も参考にした。

### 2.2. 標準語の「だろう」の用法をベースにする

推量表現の諸用法を調査する項目の作成に際して、暫定的に現代標準語の「だろう」の用法を基本とした（日本語記述文法研究会編 2003、宮崎ほか 2002などを参照した）。ただし、「だろう」が推量の典型的な用法を持つと考えているわけではない。標準語「だろう」の研究が最も進んでいるために、それを参照した。このため「だろう」にない用法の調査項目は手薄になっている。本発表でいただいた意見や、各地の調査で得られた結果に基づいて改善していきたい。

### 2.3. 推量表現に隣接する意味・用法もカバーする

いわゆる推量用法だけでなく、「あのと寝坊しなければ、今頃は就職が決まっていただろう」のような反実仮想用法、「そんなことをしたら痛いだろう？」のような確認要求用法、「本当だろうか」のような疑い用法、「誰がそんなことをするだろうか（いや、誰もしない）」のような反語用法、「なんて綺麗な景色だろう」のような感嘆用法など、非推量用法も調査する。さらに、「どうやらあの人は役場に行くようだ」のような様態用法や、「よし、私が行こう」のような意志用法など、標準語の「だろう」が持たない用法も調査項目に含めている。これは、1.1の2、3で述べたように、様態や意志を表す形式が推量の用法も担うことがあるためである。

### 2.4. 否定証拠も収集する

この調査では、「……」という文で「○○」のところをどのように言いますか、のような方言翻訳式の調査に加えて、当該方言で非文法的になる文や語句の情報も収集する。例えば、対象とする推量形式が過去・否定・条件・中止形などの活用形を持つかどうか（「だろう」はいずれも持たない）、「もしかして／どうやら／幸い」などの副詞類と共起するかどうか（これらの副詞は「だろう」とは相性が悪い）、他のモダリティ形式との共起や、従属節での生起など、対象とする推量形式が「できない」ことも積極的に収集する。

### 2.5. 非研究者への調査を前提として設計する

本調査項目は、一般の話者（研究者ではない協力者）に対して調査することを前提として

いる。そのため、(a)可能な限り調査項目数を抑える、(b)設定した文脈が伝わるようワーディングに注意を払うことを心がけた。ただし上の2.4のように、方言翻訳式の調査方法に混じって、当該方言に存在しない形式や共起関係を確認する項目があり、話者を混乱させる可能性がある。また、細かな意味・用法の違いを捉えきれないというデメリットもある。それぞれの地域では、この調査を出発点として、さらなる意味記述が期待される。

### 3. 調査項目の構成と概要

本節では調査項目の概要を示す。質問文番号は調査項目と同一で、[ ]に入れて示している。紙幅の都合上すべてを掲載することが不可能なため、項目の説明と代表的な調査例文をあげるにとどめる。そのため以下では質問文番号が連番になっていない。調査項目全体は参考文献に示した場所で公開している。適宜参照されたい。

なお、以降の発表で調査票の質問番号を参照する場合、[ ]で括った質問番号を例文の末尾に付す。また、調査例文に付した「\*」「?」「??」などの記号は、標準語の「だろう」では使用できない/不自然になることを表す。

#### 3.1. 推量形式の確認

##### 3.1.1. 推量形式の認定

ここでは、対象方言で「推量」の意味を表すために用いられる形式を引き出すことを目的とする。これに加えて、次の点を確認するために質問項目を設定した。

- a) 推量形式が動詞述語・名詞述語・形容詞述語・形容動詞述語（もしあれば）すべてと共起できるのか、それとも一部の品詞とのみ共起するのか。
- b) 推量形式が述語のどのような形と共起するのか。これによって推量を表す形式が、屈折接辞として現れるのか、あるいは終助詞のように文を終止する述語形態に付加されるのか、あるいは助動詞のようなふるまいをするのかを確認できる。例えば、関西方言のヤロは動詞にも（イクヤロ）、名詞にも（学生ヤロ）、形容詞にも（赤いヤロ）、形容動詞にも（元気ヤロ）接続できる。一方、従来の静岡方言のラは動詞（行くラ）、形容詞（赤いら）にはそのまま接続するが、名詞（\*学生ラ）や形容動詞（\*元気ラ）には直接接続できない。
- c) 活用型によって異形態が現れるか否か。例えば、過去推量を表すツローは、子音語幹動詞の語幹末子音が g、m、n の場合にヅローという異形態が現れる。

[1] 録 [友達から「あの方は今日役場に行くだろうか」と聞かれ、迷いながら]  
たぶん行くだろう。

:

[18] 録 この着物はたぶん高いだろう。

:

[20] 録 あそこは、車が通らないので、たぶん静かだろう。

[21] 録 あしたはたぶん雨だろう。

加えて、当該方言に否定推量、過去推量、「のだ」推量、丁寧推量のように、推量と他の文法的意味が1つの形式で表される現象の有無を確認する項目もある。ビョン（津軽・秋田）、ヨーモン（福岡）、チャロ（熊本・鹿児島）など、共通項目では対応していない形式については、各方言で適宜例文を用意してもらおう。

[22] 録 [友達から「あの人は今日役場に行くだろうか」と聞かれ、迷いながら]  
 {たぶん/まさか} 行かないだろう。

:

[27] 録 [友達から「あの人は昨日役場に行っただろうか」と聞かれ] 行っただろう。

:

[32] 録 [友達から「あの人は旅行に行きたがらないのに、どうして今回は行くのだろうか」と聞かれ] 仲の良い人に誘われたから仕方なく 行くのだろう。

:

[37] 録 たぶん行くでしょう/行きまっしゃろ。

### 3.1.2. 形態変化の確認

推量形式自体の形態変化を確認する。

- [42] 行く  た cf. \*行くだろうた  
 [43] 行く  ない/行く  でない cf. \*行くだろうない/行くだろうでない  
 [44] 行く  ならば cf. \*行くだろうならば  
 [45] 行く  て cf. \*行くだろうて

### 3.1.3. 副詞との共起

調査対象とする形式が推量の意味を持つか否かを、副詞との共起で確認する。

《推量形式と共起しやすい副詞類》

- [46] {たぶん/きっと/おそらく} 行くだろう。  
 [47] {さぞ/さぞかし} 喜ぶだろう/嫌がるだろう/寒いだろう。  
 (程度性を持つ述語と共起)  
 [48] まさか 行かないだろう。  
 (否定の述語と共起)

《推量形式と共起しにくい副詞類》

- [49] {もしかして/もしかしたら/ひよっとすると} ??行くだろう。  
 («かもしれない」や「のではないか」類と相性がいい副詞)  
 [50] {どうやら/どうも/みたところ} ??行くだろう。  
 (視覚情報に基づく推論と相性がいい副詞)  
 [51] {聞いたところによると/噂では} ??行くだろう。 (伝聞情報と相性がいい副詞)  
 [52] △ {嬉しいことに/幸い/運悪く} ??行くだろう。 (断定形と相性がいい副詞)  
 [53] △ たしか ??行くだろう。 («と思う」と相性がいい副詞)

### 3.1.4. その他

キャンセル可能性と否定のスコープに入るか否かを確認する。

- [54] ??あの人が行く[ ]。でも、行かない[ ]。  
cf. あの人が行くかもしれない。でも、行かないかもしれない。
- [55] \*あの人が行く[ ]んじゃない。行くんだよ。  
cf. あいつが行く {かもしれない/はずな} じゃない。行くんだよ。

### 3.2. バリエーションの把握

#### 3.2.1. 共起関係

他の認知的モダリティ形式、丁寧形式、終助詞類との共起を調査する。

- [56] 行くかもしれない[ ] cf. {\*たぶん/ ほら} 行くかもしれないだろう↑
- [57] 行くらしい[ ] cf. {\*たぶん/??ほら} 行くらしいだろう↑
- :
- [60] 行く[ ]かもしれない cf. \*行くだろうかもしれない
- [61] 行く[ ]らしい cf. \*行くだろうらしい
- :
- [64] 行きます[ ]。 cf. 行きますでしょう/行きますやろ
- [65] 行く[ ] {です/ます/す}。 cf. \*行くだろうです/行くべす
- [66] 行く[ ] {か/かい/け など} 《疑問系》 cf. 行くだろうか
- [67] 行く[ ] {ね/な/じゃん など} 《確認要求系》 cf. 行くだろうね

#### 3.2.2. 従属節への生起

- [70] ??行くだろう {人/とき} を教えて 《連体節》
- [71] ??あの人が行くだろうならば、彼は行かないだろう 《仮定条件》
- [72] ??旅行に行くだろうために、お金を貯めた 《目的理由》
- [73] あの人も行くだろうから、私も参加する 《原因理由》
- [74] あの人は行くだろう {が/けど}、私は行かない 《逆接》
- [75] あの人は行くだろうし、お土産も買ってくるだろう 《並列》
- [76] 行くだろう(と)言う 《「言う」の補文》
- [77] 行くだろう(と)思う 《「思う」の補文》
- [78] ??あの人が行くだろう(か)知らない 《間接疑問 (真偽疑問)》
- [79] ??誰が行くだろう(か)知らない 《間接疑問 (疑問詞疑問)》

#### 3.2.3. 推量に隣接する意味・用法

- [80] 録もし雨が降れば、運動会は中止になるだろう。 《仮定条件の帰結》
- :
- [83] 録あんなところに一人で行くだろうか (いや行かない)。 《反語 (真偽疑問)》
- [84] 録そんな大変な仕事を誰がするだろうか (いや誰もしない)。 《反語 (疑問詞疑問)》
- [85] 録うーん、あの人が行くだろうか。 《疑い (真偽疑問)》

- [86] 録 うーん、あの人だったらどこに行くだろうか。 《疑い（疑問詞疑問）》
- [87] なんとよく食べるだろう（か）。 《感嘆（動詞）》
- [88] 録 なんと美しいだろう（か）。 《感嘆（形容詞）》
- ：
- [91] 録 ほら、同級生に高木っていた（のを覚えてる）だろう？ あの背の高い男の子。  
《確認要求-知識確認の要求-潜在的共有知識の活性化》
- [92] 録 何をするんだ。そんなことをしたら危ない（のがわかる）だろう。  
《確認要求-知識確認の要求-認識の同一化要求》
- [93] 録 長旅で疲れただろう。 《確認要求-命題確認の要求-弱い見込み》
- [94] 録 このラーメン、なかなか美味いだろう。 《確認要求-命題確認の要求-強い見込み》
- [95] 録 ちゃんと宿題やってきただろうね。 《確認要求-だろうね》
- [96] 録 [封筒を持って歩いている人を見て]  
あの人はどうやら役場に {行くようだ/行くみたいだ/行くらしい。 《様態》
- ：
- [98] 録 [布団を干そうとしている人に] 今日は雨が降るかもしれないよ。 《可能性》
- [99] 録 彼は私より2つ下だから、今年で30になるはずだ。 《必然性-はずだ》
- [100] 録 あの人はいいい背広を着ていい車に乗っている。きっと金持ちにちがいない。  
《必然性-にちがいない》
- [101] 録 今にも雨が降ろうとしている（降りそうだ）。 《将然「とする」（非過去）》
- ：
- [105] 録 よし、私が {行こう/行くべ。 《意志》
- [106] 録 今度ご飯でも食べに {行こう/行くべ。 《勧誘》
- [107] 録 さて、行こうか。どうしようか。 《意志の自問》
- [108] 録 [子供に] トイレぐらい一人で {行こう(よ)/行くべ。 《行為要求（命令）》
- [109] 録 絶対に、言うまいぞ。 《行為要求（禁止）》
- [110] 録 なんだべや。 《談話標識（自分では判断がつかない事態について述べる）》
- [111] 録 あなたはすごいべ。 《終助詞的用法》

#### 4. 京都市方言の推量表現

本節では「推量表現 共通調査項目」を用いた調査の一例として、京都市方言の推量関連表現の簡単な報告を行う。京都市方言では推量表現として「ヤロ(一)」(以下、ヤロで代表させる)を用いることが知られている。これは標準語の「だろう」と出自が同じ形式で、ふるまいも「だろう」とほぼ同じである。ただし、共通調査項目によって、2つの特徴(「だろう」との違い)を捉えられる。以下、順に述べる。(( )の例文番号は本発表の通し番号)

##### 4.1. 丁寧形式とヤロの共起

標準語では「でしょう」があるため「だろう」が丁寧形式と共起できないが、京都市方言では共起できる。またマッシュヤロ(<マス+ヤロ)、ドッシャロ(<ドス+ヤロ)もある。

- (1) たぶん {行きマシヤロ／行きマツシヤロ}。[37] cf. \*行きますだろう  
 (2) たぶん {高いデシヤロ／高いドシヤロ／高いドツシヤロ／たこオシヤロ}。[38]  
 (3) たぶん {楽デシヤロ／楽ドシヤロ／楽ドツシヤロ}。[39]

#### 4.2. 「のだ」推量形式のバリエーション

当該方言では、「のだ」相当の意味を表す形式として、ンヤ、ノヤ、ニヤ、ネン（過去事態の場合には中止形の語幹にテンを付した形；例「行っテン」）がある。これらに対応して、「のだ」推量の形式にも、ンヤロ、ノヤロ、ニヤロ、ネンロがある。ただしネンロは比較的新しい形である。（以下の例で調査票番号に「改」を付したものは、例文を変更して調査を実施したことを示す）

- (4) なんて行く {ンヤロ／ノヤロ／ニヤロ／ネンロ}。 [1改]  
 (5) a. なんてとる {ンヤロ/?ノヤロ/?ニヤロ/?ネンロ}。 [9改]  
     b. なんてとん {\*ンヤロ／ノヤロ／ニヤロ／ネンロ}。 [9改]  
 (6) この着物はなんて高い {ンヤロ／ノヤロ/?ニヤロ／ネンロ}。 [18改]  
 (7) なんて静か {なんヤロ/?なノヤロ/\*ニヤロ/ヤネンロ}。 [20改]  
 (8) なんて行かん {\*んヤロ／ノヤロ／ニヤロ／ネンロ}。 [22改]

ンヤロとノヤロ、ニヤロは音韻的な条件にもとづいて使い分けられるが、これら3形式に用法上の違いは見られない。一方、ネンロはこれらよりも用法が限られるという特徴がある。

- (9) [友達から「あの人は旅行に行きたがらないのに、どうして今回は行くのだろうか」と聞かれ] 仲の良い人に誘われたから仕方なく行く {んヤロ／ノヤロ／ニヤロ/?ネンロ}。 [32]  
 (10) [旅行に行くのを嫌がっていた相手が旅行の準備をしているのを見て] あんなに嫌がっていたのに、どうして行く {んヤロ／ノヤロ／ニヤロ／ネンロ} か (と思う)。 [36]

#### 引用文献

- 大西拓一郎編 (2016) 『新日本言語地図』朝倉書店  
 風間伸次郎 (2011) 「テーマ企画：特集 モダリティ まえがき」『語学研究所論集』16, pp.29-55, 東京外国語大学  
 国立国語研究所 (1994, 1999, 2002) 『方言文法全国地図 第3～5集』大蔵省印刷局  
 日本語記述文法研究会編 (2003) 『現代日本語文法4 モダリティ』くろしお出版  
 船木礼子 (2006) 「推量表現」「様態表現」「確認要求表現」大西拓一郎編『方言文法調査ガイドブック2』科研報告書  
 船木礼子 (2007) 「推量とその分布」『日本語学』26(11), pp.148-155, 明治書院  
 宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃 (2002) 『新日本語文法選書4 モダリティ』くろしお出版

#### ウェブサイト

- 推量表現 共通調査項目 <https://x.gd/xczAi>  
 全国方言分布調査 (FPJD) [https://www2.ninjal.ac.jp/hogen/dp/fpjd/fpjd\\_index.html](https://www2.ninjal.ac.jp/hogen/dp/fpjd/fpjd_index.html)  
 方言文法研究会 第1サイト <https://hougen.sakura.ne.jp>  
 方言文法研究会 第2サイト <https://sites.google.com/view/hogenbunpo/home>  
 (すべて 2024/10/08 最終閲覧)